

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第 4 回森林生態系保全再生手法検討ワーキンググループ
議事概要

◆日 時 平成 18 年 11 月 18 日（土）13：30～16：30

◆場 所 奈良商工会議所 302 号会議室

◆出席者

<委員等>

川瀬 浩	日本野鳥の会奈良支部 副支部長
日比 伸子	橿原市昆虫館 学芸員
前田 喜四雄	奈良教育大学 教授
村上 興正	元京都大学 講師
武田 博清	京都大学大学院 教授

(以上敬称略)

<事務局>

環境省近畿地方環境事務所	高橋 勝志	野生生物課長
	石川 拓哉	自然保護官
(財) 自然環境研究センター	永津 雅人	上席研究員
	岸本 年郎	研究員

◆議 事

- (1) これまでの調査結果の報告と取りまとめについて
- (2) 今後の調査計画について
- (3) 西大台利用調整地区にかかるモニタリングについて

◆議事概要

○委員等からの主な意見等

(全体を通じて)

- ・調査方法や結果のまとめ方について、省略しすぎてわかりにくいところや、逆に煩雑すぎるものもある。わかりやすいプレゼンテーションを再考する必要がある。とりまとめにあたっては、それぞれの専門家から助言を得ること。

(哺乳類調査について)

- ・ネズミ類について興味深い結果が出ている。年次変動があることは否めないが、環境に敏感に反応することも確かであり、今後も継続的な調査が必要である。
- ・ネズミ類及び食虫類については、過去のデータとの詳細な比較が必要である。
- ・今回、スミスネズミとハタネズミが同所（タイプⅡ・柵外）で確認されたのは興味深い。

この2種は共存できないという説もあり、今後の調査結果に注目する必要がある。

- ・トガリネズミとカワネズミの生息状況について、より詳細な情報の収集に努めること。
- ・コウモリ類の調査結果におけるバットディテクターによる生息確認については、正確な種同定に意味をなさないので、表記する必要はないだろう。

(鳥類調査について)

- ・センサスにおける調査時間は重要なので、オリジナルデータのレベルでは明記する必要がある。
- ・テリトリーマッピングのオリジナルデータについて、川瀬委員から助言を得ること。
- ・正木峠周辺(ルートI)におけるアカゲラの出現は、立枯れ木の増加による影響が考えられる。

(昆虫類調査について)

- ・調査項目の考察について、それぞれの専門家から助言を得ること(例:地表性甲虫類;樋原市昆虫館木村史明氏、土壤動物;武田博清氏、ガ類;大阪府立大学広渡俊哉氏、食材性昆虫類;森林総研後藤秀章氏、クモ類;東京大学宮下直氏ら)。
- ・クモ類の調査については、将来的に下層植生が回復することを踏まえ、現行のまとめ方(植生の階層分類)ではなく、生息環境を明確にできる方法を検討する必要がある。

(爬虫類・両生類調査について)

- ・評価手法の検討にあたっては、井上委員から助言を得ること。

(今後の調査について)

- ・今年度までの調査で、それぞれの指標についての初期データは得ることができた。今後は、それらをどのように評価し、自然再生の取り組みへ反映させていくかについて検討する必要がある。

(西大台地区の利用調整に関するモニタリングについて)

- ・土壤動物と鳥類は、人の利用による影響を把握するための指標として妥当である。
- ・調査内容及び方法等の検討にあたっては、専門家(土壤動物:武田博清氏、鳥類:川瀬委員)から助言を得ること。

[文責:近畿地方環境事務所]